

会 議 録

内容承認	公開・非	＜開催日＞令和3年7月30日（金） ＜時 間＞15：00～17：20 ＜場 所＞岸和田市役所新館4階 第1委員会室	＜傍聴人数＞ 2名 ＜傍聴室＞岸和田市役所 新館4階 議会会議室
新川会長	公開の別		
承認	公開		

＜名称＞ 令和3年度第1回 岸和田市総合計画審議会

＜出席者＞委員20名中17名 ○は出席、■は欠席

新川	久	窪田	池島	藤田	新井	松阪	中川
○	○	○	○	■	○	○	○
田口	沖藤	高原	久禮	中井	音掬	山田	武田
○	○	○	■	○	○	■	○
齊藤	鳥居	道下	小関				
○	○	○	○				

事務局）総合政策部：西川部長

企画課：貝口課長、中井担当長、前田主任、上田担当員

＜議題＞

- 1 開会
- 2 委員委嘱
- 3 委員自己紹介
- 4 正・副会長の選出
- 5 第4次岸和田市総合計画について
- 6 次期総合計画の基本構想骨子案について
- 7 その他
- 8 閉会

＜会議内容＞

■議題2として、市長から各委員に委嘱状を交付

■議題3として、各委員の自己紹介を実施

■議題4として、互選により正・副会長を選出

会長に新川委員を推薦⇒ 承認

副会長に久委員を推薦⇒ 承認

■議題5について事務局から説明を実施

■意見・質疑

【委員】

資料5「第4次岸和田市総合計画 課題整理集」の11ページに、岸和田市の総人口の推移と将来推計人口のグラフがあるが、このグラフは何をもとに作成されているのか。2020年の国勢調査の速報値では、19万796人が岸和田市の総人口となっており、速報値は来年以

降変わることはあるかもしれないが、資料5では2020年の推計人口が18万8,955人となっている。この数値の根拠を探してみたところ、岸和田市人口ビジョンに将来人口推計の記載があり、その中では国立社会保障・人口問題研究所の推計として2020年時点で19万1,428人との記載があった。この点、数値の乖離があり、根拠がよくわからなかったので教えていただきたい。

【事務局】

総合戦略及び人口ビジョンは、令和元年度末に改訂しており、改訂後の計画では平成27年（2015年）の国勢調査の数値を使用し、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計についても、その数値に基づいて算出したものを記載している。よって、資料5には、その改訂後の推計人口の数値を記載している。

【副会長】

資料5「第4次岸和田市総合計画 課題整理集」の30ページでは、新たな日常が脅威として分類されているが、逆にそれをうまく使えば機会となる。例えば、阪南市では、生活様式の変化を活かし、ワーケーションとして働きながら休暇を楽しむことができる環境になっていくのではないかということを想定している。そういう考え方を持つと、新たな日常は機会になる。

【事務局】

現状の生活からの転換と考えたとき、課題を中心に捉えてしまう側面があった。今後、ご指摘のような視点を持ちながら、新たな生活様式について検討していきたい。

【委員】

資料5「第4次岸和田市総合計画 課題整理集」の30ページに、市民意識（アンケート結果）として、住み続けたくない理由の上位は、「まちのイメージが悪い」、「子どもの教育環境が良くない」と記載されているが、実際にこのような結果であったのか。

【事務局】

住み続けたくないにご回答いただいた市民に対して、その理由を聞いたときこのような結果となった。選択肢として「まちのイメージが悪い」、「子どもの教育環境が良くない」、「子育てがしにくい」、「買い物や外食が不便」など様々な項目がある中で、この二つが選ばれた。ただし、なぜその項目を選択したのかという理由を問うアンケートとはしていない。

【委員】

資料5「第4次岸和田市総合計画 課題整理集」の30ページに、弱みとして「転出超過傾向が続いており、特に若年層（25～34歳）で顕著」との記載があるが、実際に若年層はどの程度の割合で転出しているのか。

【事務局】

同じ資料の13ページに社会増減の推移を記載しているが、グラフの中の円で囲っている箇所が若年層の社会増減を示している。この中の直近の推移を見ると、2010年から2015年にかけて

て15～19歳（20～24歳）の社会減が約400人、25～29歳（30～34歳）では約600人が減少している。一方、高齢者の社会減は低い推移となっている。

【委員】

資料5「第4次岸和田市総合計画 課題整理集」の29ページでは、子どもを生み育てやすいまちと感じる理由として「子育てを手伝ってくれる人がいる」という結果が記載されているが、岸和田では3世代や4世代で同居している人が多いことがその要因だと思う。一方で、遠方から岸和田に来た人にも長く住んでもらいたいという思いもある。3世代や4世代など地域のつながりが強い一方、遠方から来た人は疎外感を感じ、なかなか居着いてもらえない。若年層が住みやすくなるような雰囲気づくり、アピールがあればいいと思う。

【副会長】

資料5「第4次岸和田市総合計画 課題整理集」の13ページの近隣市町との転出入動向の記載について、交通が便利で通勤に有利であれば、岸和田市より大阪市内に近い方が転出先として選ばれるのではないかと思いきや、実際に転出先の割合が大きいのは、より南側の貝塚市になっている。例えば、貝塚市の東山ニュータウンは、子育て世代にとって住みやすい環境になっている。転出先の分析を行う際、転出先市町の町単位に細分化して追いかければ、その理由やまちを選ぶ基準が見えてくるのではないか。

■議題6について事務局から説明を実施

■意見・質疑

【委員】

市民アンケートの作成にあたっては、専門家の協力を得たのか。

【事務局】

アンケート内容は、コンサルティング事業者の協力を得ながら市で作成した。

【委員】

基本構想骨子案の表現が文学的であるため、もう少し数値や根拠を挙げながら、理論的に示していくほうがよいと感じる。

【委員】

この審議会は、まちづくり市民懇話会などの議論を踏まえて作成したものについて、報告するような場であるのか。ここで議論し、何かを作り上げるということではないのか。

【事務局】

これまでいただいた様々なご意見や分析データの結果から、岸和田の現状やこれから必要な取組を導き出し、将来どのようなまちにしていきたいかという内容について計画案として取りまとめ、それをこの審議会にお出しする。審議会では、その計画案について専門的・客観的な立場からご意見をいただきたいと考えている。

【会長】

審議会までの流れとしては、まず市民参加の場であるまちづくり市民懇話会などで議論していただき、市の事務局で調査研究してもらい、また、各種団体から様々な要望をいただき、それらを取りまとめた計画案がこの場に諮問される。そして、審議会では、計画案の内容について市民の総意が活かされているかという点や、個別の内容の総合計画での位置づけが適切かどうかという点などについて、最終的にチェックし市長に答申する場であると考えている。私たち審議会が一から作り上げていくという作業はないが、ある程度まとまった計画案を審議するので、委員の皆様にはここに出てくる様々なデータや資料、その背景にある事情をしっかりと読み込んでいただく必要がある。大変なことではあるが、それぞれの分野で経験し得られた知見を活かして、限られた回数であるが取りまとめして答申に結び付けていきたいと思うので、よろしくお願いします。

【委員】

資料６では、次期総合計画の中に総合戦略を組み込んだ体系にすると表現されているが、こういった形で総合計画と総合戦略を一体化するのか。

【事務局】

総合戦略については、ある程度具体性を持った形でまとめる必要があり、基本計画の部分にその要素をいれながら、基本計画で重点化する内容を総合戦略と紐づけていきたいと考えている。また、それらの具体的な事業については、実施計画レベルで表現していきたい。

【委員】

総合戦略は、次期総合計画の策定と同時に改訂されるのか。

【事務局】

総合戦略は、令和元年度末に計画期間を延長し、終了年度を令和４年度末としている。これにより、令和５年度を計画始期とする次期総合計画と一体化する形で策定することとなる。

【委員】

資料６別紙２の「岸和田を強くする“３つの戦略”」の中に、「時代を先取り・リードする先端技術の活用」という記載があるが、良いとは思いますが、財政的に厳しい現状でどのように技術を活用し、周辺地域をリードするような内容とするのか。

【事務局】

これまでは泉州の中心として周辺地域を引っ張ってきたという経過はあるが、現在では新しい施策を実施するにあたって、周辺の状況をみながら進めているというような状況である。そのような中でも、具体的な取組として保育所の選定に AI を活用したり、申請書の処理に RPA を導入するなど、個々に新たな情報技術を活用している。また、丘陵部にゆめみが丘という新たなまちが作られたことで、今後、実証実験の場として何か取組ができないか検討されている。まだ、具体性はないが、積極的に進めたいと思っている。

【委員】

戦略として出すからには、何かてこ入れしないと時代を先取りしたり、周辺地域を引っ張っていくことにはならない。思い切った秘策を考えていただきたい。

【委員】

資料6別紙2の基本目標「賑わいと活力を創造するまち」の設定の背景について、課題として「だんじり祭だけのイメージがある」とあるが、まず市民自らが語れる資源としては、やはりだんじり祭であり、また、旅行者の目的としては、岸和田城や牛滝山の紅葉である。また、マニアックなものであれば、葛城修験、日本酒、近代建築群のほか、名産としてシラス、マイワシ、水ナスが挙げられる。しかし、これら資源は泉州地域の中でも似通っており、岸和田特有の強みを一緒に考えていただきたい。それを市民一人ひとりが愛着を持って説明できれば、大きな武器になる。ライバルが大都市になるので、戦略をもって取り組むことが求められる。

【委員】

経済も大切だが、岸和田が住みにくいまちというイメージなどの意見があるので、子どもたちの生活環境を変えるような方向性のある、もう少し未来が見える計画としていきたい。若い人の流出が多いというのは、子どもを育てたい、教育したいという世代が流出しているのだと身近に感じる。そうであるなら、歴史や文化の魅力ある岸和田の資源を通じて、子どもや若い人たちが魅力を感じ成長できるように、その戦略を計画に落とし込んでいただきたい。

【委員】

岸和田にはだんじり祭だけでなく、文化財や古墳、本町の街並みなど歴史文化の面で良い資源がたくさんある。これら資源をPRしていく手立てを真剣に考え、「だんじりだけじゃない」をアピールしないと、子育て世代をはじめ選ばれるまちになっていかない。

【副会長】

今後の検討視点として3点示しておきたい。まず、将来像に「ホッとなまち」という表現があるが、茨木市の総合計画でも「ほっといばらき もっと、ずっと」というスローガンがあり、意味合いも似通っている。同じような表現を使うのであれば、茨木市に義理を通しておいたほうがよいのではないか。

次に、将来人口について、人口減少には悪いイメージがあるが、推計値である16万6千人と同水準であった1970年頃、岸和田に元気がなかったかということを考えてもらいたい。当時は、今よりずっと元気があったはずであり、比較するとヒントがある。そこには、人口構成の違いがあり、1970年の16万2千人のときは、もっと若い人がたくさんいた。それが高齢化していった元気がなくなってきた。人口が減ることよりも、人口のバランスが崩れることが問題。さらに、地域経済の視点でみると、資料5の16ページに記載の経済循環率は73.0%となっており、残る27.0%のお金が岸和田から逃げていっている。1970年では、地域内でお金が回っていた。人口が減ることによって、あるいは減っている中で何が起きているのかが問題。

最後に、先端技術の活用について、よく総合計画に「行政DX」という言葉が出てくるが、DXとはデジタル・トランスフォーメーションの略語であり、トランスフォーメーションとは改革を起こすこと。今行っているAIやRPAの活用は、今ある仕事を効率化することであり、これは改革

にはならない。市役所の仕事をトランスフォームするには、先端技術の活用だけではなく、市役所の仕組みや制度を変えていかないといけない。

【委員】

みんなでめざそう値について、今後の基本計画において検討されることとは思うが、「〇〇と感じる市民の割合」といった主観的な表現が多すぎる。例えば、病院でいえば「救急が充実していると感じている市民の割合」より「救急搬送を断っていない割合」というような指標を設定してもらいたい。今後、各部署と連携しながら、相関関係の強い客観的な指標を探していただきたい。

以上

■次回開催予定

令和３年１１月下旬頃 （日時詳細については、事務局で調整）